

公益財団法人

ワンパーセント

イオン1%クラブ

第22回

中学生作文コンクール

受賞作品集

テーマ

私にできる 気候変動対策

豪雨や猛暑など、私たちの生活に及ぶ

気候変動の影響は深刻です。

このままの状態が続くと、森林火災、食糧危機などの問題が

地球規模で起こってきます。

気候変動を止めるために、3Rや節電などあなたが取り組んでいることや、

これから取り組みたいことを作文にしてください。

【主催】 公益財団法人 イオンワンパーセントクラブ

【後援】 文部科学省 環境省 朝日新聞社 朝日中高生新聞

目次

P2	目次	
P3	朝顔が絶滅する日が来ないために 私の普通	岡本 唯花 石井 湊士
P4	学校に薪ストーブを!薪ストーブ委員会を! 「もったいない」どころの騒ぎではない	伊藤 息 太田 綾音
P5	緑のカーテンで地球を守る みんなで一歩を踏み出せば	岡本 篤典 香川 沙奈
P6	継続すること 続ける、トクする、気候変動対策	久郷 咲友 曾篠 史果
P7	昔ながらの知恵を生かして 最初の一步を踏み出す勇氣	原田 紗 柳田 真緒
P8	我が家の掟 宮崎アップサイクルコラボ作戦開始!	穴吹 瑠 猪俣 和矢
P9	地球恩返し大作戦 ゴミ拾いマスターへの道	裏辻 陽翔 大高 優真
P10	「他人事」が進める砂漠化 ベランダの小さな自産自消	長部 芙羽 佐伯 彩里
P11	「もったいない」をなくしたい 眠るランドセルをなくすための提案	下村 明日香 高柳 大河
P12	希望の風が吹きぬけた わが家のエコルール	武田 梨々花 立澤 瑠姫
P13	未来への第一歩 父のポケットの中	野中 麻央 坂東 可奈子
P14	最初の一步 世界を救う“もったいないかき揚げ”	福島 萌花 藤田 結悟
P15	趣味で地球に恩返し 今日からできること	堀之内 鬬舞 松島 花音
P16	油で乗り物を動かそう 私ができる環境問題への取り組み	神子田 芽衣 三宅 由桂
P17	まずは電子レンジから 今すぐはじめる地球温暖化対策	過足 さゆり 吉野 雅人

文部科学
大臣賞

朝顔が絶滅する日が 来ないために

山口県 萩光塩学院中学校 二年

岡本 唯花

中学生になって、二〇三〇年のSDGs達成の年を目前にしていることもあり、私の夏の自由研究は、世界中が抱える様々な問題・課題の解決とリンクするようになった。そして今年の夏、研究の一環として、私は一年ぶりに朝顔を植えた。スマホのトップ画面に、連日表示される熱中症警戒アラートの警告。地球温暖化で地球全体の平均気温は上昇し、酷暑の日々が続く。朝顔は熱ストレスに強く、日本の夏の象徴である。発芽を心待ちにするが、一向に芽が出てこない。発芽しない朝顔を目の前にし、猛暑での熱乾燥の環境ストレスも、以前と同じレベルで考えていては、もはや対処できない現実を突きつけられた。

地球温暖化をはじめとする、人間の活動に起因する気候変動は、SDGs解決にも悪影響を及ぼしてしまふ。暴風雨や災害、食糧・水不足等も悪化させてしまふ。昨年、私はエシカルの視点を持って行動していこうと、自分ができることについて

と大根を育て、検証した。先述の研究の一環で植えた朝顔にも、生物刺激剤や手作りバイオステイミュラントを用いて検証し、今年の研究を深めたいと思っている。身近で低コスト・品種改良の必要の無い簡単な方法で、食糧生産を増やせる可能性を持つ刺激剤があれば、途上国でも導入し易い。SDGsの十七の目標「貧困や飢餓を終わらせる」という課題解決にも繋がっていくはずだ。

地球温暖化は、気温上昇により、大雨の被害や災害、紛争も悪化させる様々な気候変動を引き起こしている。動植物の生態系に被害が及べば、絶滅する動物も増えていく。農作物の収穫量、地球だけが持つ生物多様性も減少していく。何も対策をしなければ、奈良時代に日本に伝来した朝顔も、今後絶滅してしまうかもしれない。そんな日が来るのが決してないよう

に、気候変動とその影響を軽減できるアクションを、私は起こしていきたい。

優秀賞

私の普通

長野県 上田市立第四中学校 三年

石井 湊土

私の家には沢山のビンがあります。特に冷蔵庫の中はビンだらけです。牛乳はもちろん醤油やトマトケチャップ、マヨネーズなど調味料はビンに入ったモノを買っています。それが普通だと思っています。しかし、友達の家に来た時「みなとの家はビン多いよね。普通、トマトケチャップやマヨネーズってチューブだよ。ピンは使いにくいくない」と言われました。あまり意識したこともなく、普通にビンの生活が溶け込んでいたため、友達に言われて初めてピンにこだわっている家族だと気付きました。そして、それと同時にビンで父とケンカしたことも思い出しました。

昨年のお正月、家の掃除をするため雑誌や空き缶などを近くの資源物回収所に持っていきました。当然、家にある大量の空きビンも持っていくものだと思います。勝手にまとめて持っていきました。そして、私が空きビンを取りサイクルボックスに捨てると、それを見た父は慌てて、私が捨てた空きビン

拾い始めました。私は父の行動が理解できなく、ピンを漁る父が恥ずかしく、その場から逃げました。父は私が捨てた空きビンを取り、このピンはリサイクルに出してはいけな

く、父がどんな説明をしたか覚えていませんが、リサイクルにビンを出したのに怒られたことやピンを漁る父への恥ずかしさだけは覚えていました。そんなことを思い出しながら、なぜわが家ではビンにこだわるのか聞くと、「ゴミを出したくない」「ただそれだけでした。私の家で使われているピンはリユースビンという、繰返し使うことができるビンでした。空きピンは生産者に返して、きれいに洗浄され、中身を詰替えることで再利用されます。生産者同士も連携し、みんな同じピンを使っています。そのため、このリユースビンはみんなの共有物であり、財産だと説明されました。また、ゴミ問題の解決には3Rの優先順位が大切だ

優秀賞

学校に薪ストーブを！ 薪ストーブ委員会を！

山形県 山形県立致道館中学校 一年

伊藤 息

皆さんの家から山は見えますか？その山の木は管理されていますか？日本の森林面積は国土の約七割で六〇年前から少しも変わっていません。豊かな森林資源を維持しているようで、実は大きな環境課題を抱えています。なぜなら森林の約四割を占める人工林は主伐期であるにも関わらず放置され、木材が有効活用されているとは言えない状況だからです。高齢化した森林は災害に弱く、二酸化炭素の吸収量も減ります。環境省によると一四年度から二〇年度のわずか六年で二二%

も吸収量が減少しています。森林は重要な機能を持つ環境資源ですが、海外の伐採問題とは異なり、日本の人工林は今ある木を活用して植林する「循環」を作らなければいけません。国産材を住宅や工芸品に活用する動きはすでにありますが、家一軒、椅子一脚を作るだけでは残念ながら木を使い続ける仕組みにはなりません。

そこで僕は学校に薪ストーブを設置し、燃料として地域材を活用することを提案します。各学校で暖房器具であるヒーターやガスストーブをたった一台、薪ストーブに変えるだけで一日約二〜三束、シーズン五ヶ月で約四〇〇束(約2t)の薪消費分の森林活用と、電気や灯油の削減が期待できます。二酸化炭素の排出量は従来の暖房機器に比べ、一シーズンで一五〇万tも削減できます。薪ストーブ設置費用に加え、木を切り出して学校に運搬する手間を考えると、化石燃料に頼る選択は非常に簡単ですが、気候変動は今すぐ僕らが身を削ってでも対策すべきところまで来ています。それは今年施行された森林環境税をみても明らかです。薪材の伐倒や運搬はプロに委託する必要がある、森林環境税をうまく活用できる事例になるはずですが、プロの力を借りて今あるスギ・ヒノキを管理することに加え、中学生や地域住民も参加して、新たにコナラ・ミズナラなどのどんぐりができる木を適正な間隔で植えるという、一

〇年、二〇年後の森づくりをしていきます。日本の高い林業技術の後世につなご、地域一帯の森づくりにこそ森林環境税を使うべきです。

僕は薪ストーブの設置に合わせ、学校に「薪ストーブ委員会」を設けます。薪を割り、管理し、火おこしや効率的な炊き方を探求して仲間と汗をかいて楽しく温まりたい。設置場所は地域の集いの場になるといいし、災害時には火おこしがきつと役立ちます。自分たちで植林したところが「僕らの森」と呼べる森に育っていくのは、どんなにワクワクすることでしょう。気候変動は世界規模のものですが、日本で、僕らの地域で、学校生活でできることは必ずあります。実は山から切り出した木を薪にしても、約一年乾かさなければ使えません。つまり僕が割った薪は後輩が使うのです。後輩たちのために薪を割り、薪と一緒に森林の大切さも、それを守る使命のバトンも渡していきたいと思います。

優秀賞

「もったいない」どころの騒ぎではない

東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校 一年

太田 綾音

「食べ残しはもったいない。」これは、私達が幼い頃から教えられてきたことである。家庭でも学校でも、「食べ物を粗末にはしていない」という言葉をよく聞く。しかし、食品ロスが「もったいない」に加え、燃やすと二酸化炭素、埋めると二酸化炭素の二十八倍の温室効果を持つメタンを排出することを知っている人は、どれくらいいるだろうか。

調べると、政府間パネル(IPCC)は、食品ロス由来の温室効果ガス排出量は、全体の排出量の八〜十%を占めていると発表している。そして、それは自動車の排出量とほぼ同じ量であることを知り、とても驚いた。地球環境への影響を軽減するためには、一人ひとりの食品ロスに対する意識を高め、食品ロスを少しでも減らすことが必要だ。

例えば私の家族は、ビュッフェスタイルのレストランでは、どんなに美味しそうに見える料理でも少量ずつ取り、本当に気に入って、もった食べられるとわかった後に、もう一度取りに行

くようにしている。ある時、若い男女のグループが、山のように盛り付けて写真を撮り、ほとんどを残して去っていくのを目撃した。「なんてもったいないことをするのだろう」と、胸が痛んだのを覚えているが、今から思えば、あれも「もったいない」どころの話ではなかったのだ。

スーパーマーケットなどの食品売り場に行くと、沢山の食品をいつでも、いくらでも買うことができる。このように食料的に安定している、食品を廃棄することに大きな罪悪感を抱くことが比較的少なく、先ほど述べたような事が起きるのかもしれない。しかしこれからは、食べ物を無駄にすることが、近年の気候変動の原因になっていることを理解することが必要だ。

そして、私たち一人ひとりの小さな行動が、大きな変化を生む一歩となることを知らなければならぬ。こんな取り組みはどうだろうか。名付けて、「食べ切りエコポイントシステム」である。このシステムでは、飲食

店できれいに食べ切った一度の来店につき、一ポイントが付与される。そして、そのポイントが一定数貯まったら、魅力的な景品と交換できるのだ。この景品は、環境に係る負担を軽減するようなものが望ましいだろう。例えば、五ポイント集まったらエコバッグ、十ポイントでドライヤーボールなどである。これらはエコだけでなく、経費削減にもつながる景品なので、二ポイントでも多くもらえるように、飲食店での注文の際によりいつそう注意するようになるのは、私だけではないだろう。

食べ物を大切にすること「もったいない」というこれまでの気持ちに加え、地球を守るためにも食品ロスを「本気で」減らそうとすることが、気候変動対策の第一歩となることを信じている。

優秀賞

緑のカーテンで地球を守る

徳島県 徳島県立城ノ内中等教育学校 一年

岡本 篤典

家から外へ一歩出た瞬間。息が詰まる程の全身に熱風がもわつとまとわりつく様な暑さを感じる。今年の夏はそんな暑い毎日だ。命の危険を感じるような気温を体感し、私は地球温暖化をより身近な問題として捉えることができた。暑さから身を守るため、室内ではどこも冷房がガンガンに効いている。私の家でももちろんクーラーの効いた部屋で過ごしていた。オリンピックでも環境保全の為に、様々な取り組みが行われている中、人の安全や快適さと、地球の気候変動対策を上手く両立できないか、と考えるようになった。

そんな時、祖母の家に遊びに行くと、祖母の家は驚く程涼しく快適だった。祖母の家のクーラーの設定が低い温度なのかと見ると、私の家より二度も高かった。なぜこんなに涼しいのかと祖母に聞くと、あれかな、と窓の外の緑のカーテンを指差した。ヘチマとキュウリの葉がおおいしげについて、見た目にも涼しい。家庭科で学んだ緑のカーテ

ンがこんなにも涼しいとは正直驚いた。私は祖母の家から少し分けてもらい、家にも窓の近くに緑のカーテンを作ってみた。思ったよりすぐ大きくなり、そこにチョウなどが飛んできたりして、やすらぎの効果もあった。そして私の家でも当初のエアコンの設定より一度高くしても十分涼しくなった。他の窓にも設置すればもっと設定を高くできると思った。調べてみると温度を一度上げるとCO₂を約88削減できるらしい。消費電力を13%減らし、年間CO₂排出量を7・8kgも減らすことができるのだから、一人一人が実践すれば大きな力になると思った。

また、この体験で屋上緑化にも興味を持った。都市部に比べると私の住む徳島は緑が多く残っていると思う。しかし、一方で人口が減少したり、若年層の都市部への流出などで、住まれない住居や、使われていないビルなどが多く存在している。

か、と考えた。ビルの屋上緑化は、気候変動への対策となるだけでなく、ビルの耐久性の向上や、紫外線による建物劣化の防止になる。緑化を地元の小中学生なども含めてボランティアで行うことで環境問題をより身近な問題として考えられるのではないかな。

そこで、そのようなビルの屋上を緑化してはどう

優秀賞

みんなで一歩を踏み出せば

香川県 さぬき市立さぬき南中学校 二年

香川 沙奈

たった一人のたった一歩が大きく世界を変えると私は思っている。

私が気候変動に興味を持ったのは小学三年生の頃だ。ニュース番組をいつものように何気なく見ていた。そこに映ったのは、グレタさんが訴える様子と水が解けたり山火事がおこっている映像で、その中の一番の被害者は、火傷を負ったりすみかを追われたりする動物だった。私は恐ろしいと強く思った。グレタさんは当時十六才で毎週金曜日に学校を休み、気候変動対策を訴える活動をしていた。

私にもできることがあると思ひ、まずは本を読むことにした。得た知識を家族で共有し、できることから取り入れていった。見ていないテレビを消したり、洗顔の時やお風呂に入る時に水を少量にしたり止めたり、移動は自転車や歩き、公共交通機関を使うようになった。家族の意識も変わっていき、環境に関する情報を知った時にはみんなで共有するようになっていった。当時エアコンが夏は二十五

度だったのが今では二十八度。歯ブラシの横になったコップが、今では常に隣にある。点けたままだったテレビが今では見たいものがある時だけ点くようになった。おかげで家族との会話も増えた。

どうすれば広められるだろうと考えた私は、小学生の時に児童会長になった。そうすればもっとみんな地球環境についての活動ができると思ったからだ。しかし結局実行できたのは、環境問題を訴える新聞一枚だけだった。この時、思っていたことが一つもできなかったという後悔が大きかった。今になり考えてみると、その新聞も捨てるとゴミになるのも、もっと他に良い方法があるはずだと思う。

その思いを胸に中学生になった私は、生徒会役員になった。今は週に一回、環境放送をして全校生に自分

でできることを発信している。他にも掲示板に紙を貼り、水質汚染を止めるためにできることを書いてもらった。これらは決して私一人の力ではない。賛同してく

れるクラスメイトや生徒会役員の仲間や先生方の協力があつてできたことだ。今、作文を書けているのも放送を聞いてくださった先生が勧めてくださったからだ。常にまわりの人への感謝を忘れず、自分にできることを考え、これからも活動していきたい。

「みんなで一歩を踏み出せば全校生徒全員分の三三〇歩です。南中から世界を変えていきましょう。」放送終わりの決まり文句だ。一人の力は小さいけれど世界中みんなの力を合わせると計り知れないほどに大きな。私の小さな一歩が世界の大きな一歩につながる。信じて行動を続けていきたい。

優秀賞

継続すること

東京都 渋谷教育学園渋谷中学校 一年

久郷 咲友

私は四人家族だ。両親と兄、そして私。家族の行動に注目するとあることに気が付く。

まずは祖父。私は時々、祖母の家へ遊びに行く。祖父は、私の消し忘れた電化製品のスイッチをパチパチと消す。卓上スタンド、廊下、階段の照明。私の後ろについて消すこともある。祖父に言わせると

「電気を大事にしているんだ。資源を無駄にしてはいけない。」

だそうだが、

次は母。母は、ごみの分別に厳しい。「ヨーグルトの容器の周りの紙は可燃、容器はプラスチックごみに分類してね。」と口うるさく言われる。

最後に兄。兄の趣味は家庭菜園。兄が育てた野菜はどれも新鮮でおいしい。兄は、

「生ごみが出たらとっておいて。」

と言う。生ごみを集めてどうするかと思っていたが、兄から美味しい野菜を育てる肥料になることを教えてもらい、驚いた。

この三人は、環境について考える姿勢をもっている。節電、ごみの分別、生ごみを使った堆肥作り、それぞれが自分たちの立場でできることに取り組んでいる。一方、私自身はどうだろうか。正直、自分から取り組んでいるものがない。三人の姿や合宿で訪問した長野県の栄村の人々の生活を目の当たりにし、意識が変わった。

栄村は、農業が盛んで、住民のほとんどが自給自足の生活を営んでいるという。広大な農地からはたくさん作物が採れるが、同時に野生動物からの被害も受ける。

「売り物にならない作物は、野生動物に分け与える。」この言葉から、動物と共に生きる村の人の考えや食べ物に無駄にしない気持ちが見えてきた。また、雪解け水を農業に使用したり、藁を集めて編み、かごにして活用したり、生活のすべてが環境に配慮している。いわば村全体が、自然を大事に、感謝しながら生きているのである。

合宿から帰宅して、兄に生ごみの量について尋ねた。「3093g」この数字は、夏休み中のある一週間、自宅から出た生ごみの量だ。つまり、一年間で約160kgも生ごみを出してしまう計算になる。1tの生ごみを焼却するのに2000kgの二酸化炭素が排出され、もし、その1tをコンポストに入れたなら、18kgの二酸化炭素の排出で済むという。コンポストを意識することは、気候変動を止めるための大事な一手になると確信した。また、数字を目の前にしてようやく兄の言う堆肥作りがいかに環境の保全に繋がっているかを理解した。堆肥作りだけではない。祖父の節電も母のゴミの分別も、すべてに意味がある。私は、電気の消し忘れはしない。ごみは進んで分別する。そしてコンポストで堆肥作りに協力する。今はこれらをしっかりと行いたいと決意する。小さな一歩は大きな一手になると分かったのだから。

優秀賞

続ける、トクする、気候変動対策

静岡県 静岡雙葉学園静岡雙葉中学校 三年

曾篠 史果

巨大化する台風や異常な猛暑、豪雨……。今や地球規模で気候が変動していることは明らかで、私たちは「今」でできることを、「今」に「やらなくては」いけません。私にできる気候変動対策、それは『雨水』の活用です。

近年、干ばつなどに見舞われる国や地域も多いと聞きますが、幸い、日本はどちらかというと雨は豊富です。これらを単なる災いとして避けるのではなく、逆に気候変動対策につなげようという考えです。

具体的な行動として、まず、私は家族にお願いをして雨水タンクを設置してもらいました。雨水の有効活用や災害対策の観点から、様々な自治体で補助金などが出されていて、私の住む静岡市でも設置推進のための補助金もあったそうです。大きなタンクと小さなタンクの二個を設置してもらい、私は様々なことに活用しています。例えば、夏の水撒きです。昔から打ち水の水が知られていますが、無料で、温暖化につな

がるようなデメリットもなく、まさに良いことづくめです。道路などのほか、最近ではエアコンの室外機にもかけています。こうすることで、水分が蒸発する際に室外機の熱も吸収し、冷房効率が上がるといわれています。もちろん、水やりにも使用します。雨水の方が植木に良いという話も聞きます。し、二酸化炭素を吸収する植物を育てることも私のできる気候変動対策です。そして、意外な活用方法が、家族の手伝いで使う洗車用の水としての活用です。なんと、水道水よりも水垢が付きにくく、よりきれいになるのだとか。それを知った際、様々なコストや環境負荷がかかった有料の水道水よりもメリットがあるなんて、使わない手はないと思いました。

私は気候変動対策について、「自分もトクする」とも大切に考えています。環境対策、温暖化対策、気候変動対策というと、とにかく我慢したりなにかをあきらめたりして行うものが多い印象です。しかし、そ

れだけではずっとは続かない気がするのです。すごく重たい荷物をなんとかして持つことができたとしても、ずっとは無理です。ずっと持つていられるように、続けられるように行う。それが私の気候変動対策です。

雨水の活用について、もう一つ忘れてはいけない大切な活用方法は「防災」です。近年、気候変動にも起因して様々な災害が発生しています。雨水タンクの雨水は万が一の際にも頼もしい味方になってくれます。トイレ用に使ったり、洗いに使ったり、本来ならば下水管に流れ下水処理されるはずの雨水が私たちに「トク」をもたらすのです。

気候変動対策は、一人でも多くの人が、継続的に取り組まなくてはなりません。私は自分にも「トク」をもたらしながら、私の取り組みを知った多くの人が「私もやろう！」と思ってくれるように、これから少しずつ取り組んでいきたいと思っています。

組まなくてはならない。私は自分にも「トク」をもたらしながら、私の取り組みを知った多くの人が「私もやろう！」と思ってくれるように、これから少しずつ取り組んでいきたいと思っています。

優秀賞

昔ながらの知恵を生かして

福岡県 福岡大学附属大濠中学校 一年

原田 紗

ある日、私は祖母の家で不思議なものを発見した。祖母の家の大きな窓は、私の見たことのないもので覆われていたのだ。私が不思議そうにながめていた時、それに気付いた祖母が、これは「すだれ」というものだと教えてくれた。細い竹の枝のようなものが何本も束ねられて、きれいに一列に並んでいた。表面はつるつるしていて、そのすだれからは、割り箸を割った時のような竹のいいにおいが漂っていた。都会の雰囲気とギヤップを感じるそんな見た目に私は興味を覚えた。家への帰り道に車から様々な建物を見てみると、驚くことに、そんなすだれを窓につるしている家が何軒かあったのだ。

私は、すだれについて調べてみることにした。すだれは、竹や葦を編み込んだもので、中国から伝わったと推測されている。日本最古の和歌集「万葉集」にもその記述があるほど古くからあり、平安時代には部屋の仕切りや日よけによく使われていたそうだ。現代ではカーテンが主流になり、すだれを知らない若い人も多い。調べてみて驚いたことは、そのすだれを使用した時の効果のすごさだった。すだれは、編んだ竹の一本一本に隙間ができるため、熱はさえずるが、光や風は通してくれる。窓の外側に取り付けることで、窓に直射する夏の暑い太陽の熱量を抑える効果がある。自然の光で部屋は暗くなりすぎず、電気代を抑えるメリットがあるということだ。

実際に私はホームセンターですだれを購入し、リビングの窓の外に取り付けて、日中の部屋の温度変化を検証してみた。リビングの窓は北西に向いており、普段正午を過ぎると西日も強くなるため、部屋のクーラーを二十四度に設定しても、体感では三十度にまで感じている。すだれを設置してみて、まず西日の暑さが和らいだ。日の明るさは自然に入ってくるので、カーテンを閉めるよりも閉塞感を感じなかった。実際には、クーラーの設定を二十六度にして、クーラーを止めてみる。十六度にまで上げても不快に思うことは少なかった。すだれ自体に水を吹きかけると、風が吹いた時に、より涼しさを感じることもできるそうだ。ほんのわずかな違いかもしれないが、連日の暑さ対策に私たちができる小さな工夫を発見できた気がする。

今、気候変動は深刻な国際問題であり、自分のこととして考えていかなければならない身近な課題だ。私が祖母の家で発見した新しい知識は、決して新しいものではなく、古来より伝わってきた先人の知恵なのだ。そんな知恵の詰まった手軽に出来る節電対策は、ぜひ世界にも広めたい文化だと思う。英語を使って紹介できるように努めてみたい。きっと他にも、伝統や文化の中には現代の課題の解決の一助となるヒントが隠れているのかもしれない。昔から伝わってきた知恵から学び、現代に発展させていく温故知新の心を持って課題を考え続けたい。

優秀賞

最初の一步を踏み出す勇氣

東京都 昭和女子大学附属昭和中学校 三年

柳田 真緒

昨今、ニュースや天気予報を観ていると気候変動によって、人々の社会活動が阻害されている状況にあると感じる事が多くある。私は小学校三年生の時、カナダへ旅行に行った。その時、氷河の融解が危惧されているのを知った。その時から、氷河融解や地球温暖化に興味を持つようになった。そして昨年、氷河融解についてより深く調べ、このまま氷河融解が進むと人間の社会活動や野生動物に現在よりも更に大きな損害が生じてしまうことを知った。

地球の危機的状況を感じた私に、できることはあるのではないかと考え、学校の環境活動団体であるオペレーショングリーンで活動を始め、学校の環境活動の促進に努めている。学校には、大量のリサイクルできる紙が燃えるゴミに捨てられ、リサイクルされていない現状にあった。もともと私の学校には十年ほど前に取り付けた、紙資源のリサイクルを促進させるためのゴミ箱が各教室一つずつ設置してあった。だが、適切に使用されていない状況にあった。このままだと紙資源はリサイクルされなくなってしまうと思い、もう一度、紙資源専用のゴミ箱を全校で使ってもらうためにはどのような対策を立てれば良いのか考えた。紙資源専用のゴミ箱が継続して使用されなくなつた背景には、ゴミ箱の使い方の引き継ぎが行なわれなくなつたことや主導する人が曖昧になつたことが原因と判明した。常に活動を進めることのできる、委員会と協力し、リサイクルを絶えず進められるようにした。委員会と協議を重ね、「リサイクルアドバイザー」として、各教室に二人以上リサイクルを主導する係を設置することにした。係の設置により、リサイクルを継続して行えるようになった。現在、数ヶ月にわたって計画してきた企画の実行段階に入っている。今後も私の作つた基盤を基に何十年も先までリサイクルが続くことを願っている。

一人の生徒の小さな一歩が、一つの学校の多くの生徒の大きな一歩になると思う。その動きは他の学校にも広がり、より大きな一歩となるのではないかと思う。そして、日本中でその動きが起これば、世界に影響を与えることができるのではないかと思う。私は気候変動に対して行動できる最後の世代だと言われている。長期的なビジョンを実現するために、私自身がたくさんの人を巻き込みながら、一歩ずつ前に進みたいと思う。最初の一步を踏み出すことは、誰にも気づかないほど小さな一歩だと感じる。しかし、強い意志を持つて行えば、他の人に影響を与え、前向きな変化をもたらすことができると思う。今後、学校の環境活動に積極的に取り組みたい。

入賞

我が家の掟

北海道 旭川市立愛宕中学校 二年

穴吹 瑠

今年の夏も暑かった。暑

くて暑くて眠れない日もあった。そうなのだ、我が家にはクーラーがないのである。私は父に、なぜ我が家にクーラーがないのか聞いてみた。父曰く、「ママとのクーラー戦争に負けたから……」との答えが返ってきた。「クーラー戦争？」私はおそろおそろ勝者の母に近づき理由を聞いてみることにした。儉約家の母のことだ、電気代が高いからと言うに決まっている。しかし、意外な答えが返ってきた。

「地球の温暖化を止めるためだよ。」

温暖化を止めるため？それでは、我が家の取り組みを紹介しよう。

まず一つ目。私は三人兄妹の末っ子だが、三人とも布オムツで育てられている。父も「まさかウンチついた布を手洗いすることになるとはなあ」と笑って言っていた。布オムツだと、何と言ってもゴミが削減できる。旭川市では赤ちゃんが生まれた世帯に、燃えるゴミ袋の支給をしてくれる。そのゴミ袋はまだ半分

以上残っているらしい。

ゴミと言えば、我が家は生ごみはゴミではない。生ごみは、庭にあるコンポストに入れ肥料へと変身させる。ゴミも減るし、おいしい野菜も食べられるしまさに一石二鳥だ。その庭には、昔懐かしい手押しポンプがある。水道代の節約に大活躍だ。その水で育った大根は収穫後土に埋めて保存している。土に埋めると冬でも大根は凍らないらしい。ただ、真冬に大根を掘り出している母は大変そうだった。

我が家の掟は数知れず。コンセントは使う時にさす。電気のつけっぱなしはありえない。洗濯は風呂の残り湯を使う。絵の具や習字の筆を洗うのももちろん風呂の残り湯。油污れはまずボロキレでふき取る。ゆで汁は洗剤の替わりになるので流してはならない。すぐで使った水もタライにためてプラゴミのすずぎや台所洗いに使う。掟破りは水を出しっぱなしにすること！最近私にも、水が流れているのがお金が流れていくように見えてしまっている。

冬でも日差しが入る昼間は暖房を消す。ソファーにはひざ掛けがあり、みんな毛糸の靴下をはく。冬の我が家は風呂上がりに気を抜くと風邪を引いてしまう。

我が家の日常の代表的なものをいくつか紹介したが、実はまだまだたくさんある。ただ、紹介したのは他の家庭でもやってほしいという思いからだ。私が生まれた時からやっていることなので、私にとっては当たり前のことなのだが、友達に話すとき驚かれることがある。地球温暖化は、穴吹家だけが省エネルギーに取り組んでいても解決することとはできない。みんながやらなければいけない。みんなが同じ意識で取り組んでいく必要があるのだ。

自分にできることは何なのか、考えてみた。我が家で幼い頃から実践していることを広めたいと思った。みんなに同じ意識で地球環境を考えてもらいたい。私たちが生きる未来を笑顔あふれる地球にするために、私は、この思いを一人でも多くの人に伝えていきたい。

夏休み、僕は航空機に乗って機内誌をパラパラとめくっていた。「アップサイクル」そんな言葉が僕の目に飛び込んできた。興味を持ち、その記事を読んできた。そこには色鮮やかなアップサイクル品が並んでいた。「ライフジャケットから作ったバッグ、航空機の窓を利用した壁掛け時計」どれも僕の心を揺さ振った。この記事に魅了されてしまった僕は、家につくや否や記事について詳しく調べてみた。

そこには「アップサイクル」とは廃棄予定であったものに手を加え、新しい製品へと変える方法。当社では役目を果たした航空機の部品をアップサイクルしている。」と書かれていた。「二つぐらい買えるかな？」と思ったが、だいたい一万円超えて、とても中学生が買えるような値段ではなかった。

では、僕が住んでいる宮崎県では、アップサイクルを行っているのか調べてみた。まず感じたことは、アップサイクルを行っている所が非常に少ないということ

入賞

宮崎アップサイクルコラボ作戦開始！

宮崎県 宮崎市立宮崎西中学校 二年

猪俣 和矢

だ。「もしかしたら、アップ

サイクルという言葉自体が宮崎に浸透していないのではないだろうか。」そんな疑問をいだいた。

そもそも僕自身、アップサイクルについてよく分かっている。「きつと他の人達もアップサイクルについてきちんと理解している人は少ないだろう。」そう思い、家族のみんなに聞いてみた。案の定、誰からも明確な答えは返ってこなかった。

アップサイクルも気候変動対策の中で重要な役割を果たしていると思う。しかし、認知度があまりにも低い。

まずは、国や自治体、会社などがSNSなどを通じて広報活動をして周知するべきだと思う。それに加えて、学校では技術や家庭科、総合の時間を用いてアップサイクルを取り入れた授業をしてはどうだろうか。僕自身も、友達や家族とアップサイクルについて話し合ったりして、生活の中に取り入れられるように身近なものにしていき

たい。

次に誰もが参加できるアップサイクルの仕組みを作る必要がある。冒頭の航空機のアップサイクル品は、話題性があっても限られた一部のしか商品を購入することができない。もっと多くの人が参加できるように、身近な物で作った安価な物にする必要がある。

そのためには、システム作りが重要な鍵となってくる。不要になったものを引き取り、それに手を加えて価値をつけた新しいものを必要としている人に購入してもらう、そんなサイクルを構築していくことが必要ではないだろうか。

ここ宮崎は、農畜産物の宝庫である。しかし、形が悪いなどの理由だけで廃棄されてしまうものがある。聞いた。これはアップサイクルのチャンスだ！技術を持った会社と宮崎がコラボして廃棄ゼロの未来を切り開こう。

入賞

地球恩返し大作戦

福岡県 福岡大学附属大濠中学校 三年

裏辻 陽翔

今年の夏、僕は語学研修でアメリカに行った。乗り継ぎで羽田空港から福岡に帰る日、台風が来た。僕は始発便に乗ったことで何とか台風から逃れることができた。しかし、その後関東では、台風の影響で倒木や冠水、トラックの横転があったとニュースで知った。

近年、台風などの自然災害の威力は大変強まっている。それに伴って被害の大きさも甚大になっている。これは「地球沸騰化」によるものだ。地球沸騰化とは地球温暖化の危機的な状況のことである。人類の活動によって進行する地球沸騰化は僕たち人類や生き物を苦しめ、地球をボロボロに破壊している。そのような状況を打破するために、僕たちには何ができるのだろうか。

僕は最近、スマートフォンやタブレットの使用時間を減らすよう努力している。実際、スマートフォンを使用することで、一年間に一人あたり四・五から五・二五キログラムの二酸化炭素を排出しているそうだ。世界

ではおよそ五十五億人がスマートフォンを保有していると調べて分かった。一人年間五キログラムの二酸化炭素を排出しているとなると、全世界で約二千八百万トンの二酸化炭素をスマートフォンの使用によって排出していることになる。これはドミニカ共和国が一年間で排出する二酸化炭素の量とほぼ同じである。その国は好調な経済発展を遂げている国である。スマートフォンを使用することで、そのような国と同量の二酸化炭素を排出しているのは大変大きな問題である。

スマートフォンを使用する時間を減らしたことで、僕の体にも良いことが起きた。それまで頭痛がしたり体が重かったりしていたが、時間を減らすと、それらがピタリと止まった。また、睡眠の質も上がったような気がする。

しかし、使用時間を減らすとしても結局は誘惑に負けて使用してしまう。そこで僕は時間を減らす方法を考えた。それは、ポイン

ト制の導入だ。例えば、国が専用のアプリを開発する。そのアプリでは、各々が一日にスマートフォンを使用した時間が前日に比べ減ったら、減った割合に応じてポイントを貰える。逆に増えたら、増えた分のポイントを没収される。貯めたポイントで様々なものを貰うことができる。例えば形が悪くて売り物にならない果物を使ったスイーツや、ペットボトルをリサイクルして作られた服など環境に優しいものである。スマートフォンを使用する時間を減らすことで、自分の健康のためにもなるし、自分の欲しいものも貰えるし、地球沸騰化を抑制する一助となることもできよう。

そうやって一人一人が行動することで、地球を救うことができる。いや、恩返しができる。今は地球を破壊する時ではなく、僕たちにたくさんの恩恵を与えてくれる地球に恩返しをする時なのだ。

入賞

ゴミ拾いマスターへの道

茨城県 緑丘学園水戸英宏中学校 三年

大高 優真

私の学校への通学路はゴミが多い。特にバス停のそばや道路の端などに落ちて

いるゴミが目立つ。いわゆるポイ捨てゴミだ。これを気にするようになったのは、中学一年生三学期ぐらいの時からだ。私の学校では、総合の授業でよくSDGsについての活動がある。その活動を通して、小学校の頃よりもSDGsについて真剣に考えなければならぬ段階であることを感じている。「持続可能な世界」を実現するためにいろいろな活動があるが、その中でもポイ捨てのことが気になった。それは、自分の実生活の中で最も身近であり、解決できそうでできない問題だからだ。

そもそも、ポイ捨てがなぜ気候変動に関係あるか分からない人もいるだろう。しかし、ポイ捨てゴミは気候変動の大きな原因の一つでもある。なぜなら、街や自然にポイ捨てされたゴミがマイクロ化し、環境や生態系などが破壊されてしまうからだ。それは地球温暖化が加速し、気候変動に影響

を及ぼすことになる。

このような影響を考え、私の通う学校では自分たちのできる取り組みとして、学校周辺のゴミ拾い活動をした。学校の近くを改めて回ったところ、思っていた以上にいろいろなゴミが落ちて驚いた。吸い殻や缶、ペットボトル、折れた傘、車のフロントバンパーまで落ちていた。ゴミ拾いでは大量のごみを収集し、誇らしい気持ちになった。また、コレクションを収集しているような面白さも感じた。それから、私はこの活動をした後も、学校の行き帰りに自主的にゴミ拾いを行うようになった。拾ったゴミをポケットやカバンに入れていて、親に驚かれたこともある。ただ自己満足で始めたことだが、通学路で気になっていたゴミを拾うことで

だんだんとゴミが少なくなっているように感じた。本当に少しずつではあるが、バス停や歩道橋の景色が変わり始めているような印象がある。

このような改善があり、私はこのゴミ拾い自己満足キャンペーンを広めたい気持ちを持ち始めた。しかしながら、「ポイ捨て禁止」の歴史は長く、それが改善されない日々が世界中で続いているのは確かだ。そこで、エコバックが日本で定着し始めた例や、散歩ゲームアプリや、スーパー前のゴミ収集ボックスなどからヒントを得て考えたのが、ポイ捨てゴミを拾って、特定のゴミ箱に入ればポイントがもらえる制度だ。それをエコポイントとして、学校内でクラス対抗戦として競えば、みんなのやる気も出るのではないかと思った。きっかけができれば、ゴミ拾いの楽しさを感じて、私のように自発的なゴミ拾いをする人が増えていくのではないかと思う。小さな取り組みではあるが、それが地域に広がり、また日本や世界に広がっていくれば私たちが住んでいる地球も守られていくのではないかと思

った。これがゴミ拾いマスターへの道だ。

入賞

「他人事」が進める砂漠化

北海道 北海道教育大学附属函館中学校 一年

長部 美羽

私は、地理の授業でアフリカ北部にあるサハラ砂漠の南のサヘルと呼ばれる「砂漠化」の進行が進んでいる地域について学習しました。サヘルでは少量の雨が降るため樹木や草が少しかけ育ち、人々が暮らしていません。しかし、近年サヘルでは人口増加による水の使用量の増加や、地球温暖化による気候変動によって干ばつが起こり、樹木や草が生えず、耕作や放牧が不可能になってしまおうという状況に陥っています。こういった土地の変化が「砂漠化」です。そこで、どうすれば砂漠化の進行を防ぐことが出来るのかを調べ、ため池や用水路を造ったり、植物を保護する地域を設けたりすることで砂漠化を防ぐ、国際的な取り組みが行われていることを知りました。調べていくうちに、サヘルで行われている持続可能でない「焼畑農業」は樹木などを切りはらって、それを燃やした灰を肥料として利用するため植物が減り、砂漠化を進める原因となってしまうのではないかと考えました。

ました。

サヘルで起きている問題に対して解決策を考えることは大変ですが、私達の身近でも起きる可能性があると考えれば少しは案が思いつきやすいのではと考え、家でも出来る予防策を考えました。それはつまり、「普段の生活の中での些細な意識付け」です。電気を点けっぱなしにしない、冷蔵庫の開閉は必要最低限にする、エアコンや扇風機の使用を極力控えて節エネルギーをやるなどといった普段の生活の中での些細な意識が、二酸化炭素の排出を抑えて地球温暖化を食い止めることに繋がります。そこから引き起こされる干ばつを防ぐ予防策になると私は考えています。

まず一人から、そして家族、学校みんな、いずれは日本全国へと協力の輪が広がっていくべきだと思います。皆さんで、まだ見ぬ夢の広がる明るい未来へと一歩ずつ、ゆつくりでいいので共に歩みを進めていきましょう。地球は協力の輪で成り立つのだから。

私の家のベランダには植物がたくさんあります。というのも母が植物好きで、自然と植物が身近にあるという生活をしているからです。山や公園などに幼い頃から連れて行ってもらっていたせいか、自然と植物や生き物への意識が高まっていたように思います。

ベランダからは川沿いの桜が見えます。今年はいつ咲くかなとか、暑さがいつまでも続くから今年の紅葉はどうかななど、不思議と感じるようになりました。ベランダには花や野菜、水草などの植物と金魚がいます。植物にかけける水は、金魚達のフンが混ざっている水です。料理を作るときは、できるだけ野菜くずが出ないような使い方をしよう心がけ、出た野菜くずはミズアブの幼虫が食べて、最終的に肥料になります。ミズアブの幼虫は金魚のエサになり、栄養豊富なタンパク源です。そして、そのフンは植物の肥料となります。植物には益虫も害虫も集まりますが、何もないベランダに比べて、たくさんの生

き物を見ることが出来ます。全ての植物が思い通りに育ってくれることは、なかなかありません。特に夏野菜は近年の信じられない気温に加え、室外機やコンクリートなどの暑さでうまく育ってくれません。地球温暖化をとっても身近に感じます。その暑さの中でも頑張ってくれる植物達もいます。スーパーで買った小松菜、空心菜、ネギなど少し根や茎を残して植えておくと、どんどん生長して、また食べることが出来ます。食べた野菜や果物の種を育ててみたことはありますか。ピーマン、メロン、いちご、すいか、アボカド、はっさくなど、私は何でもみてみます。ぜひやってみてください。全然芽が出ないなんてこともあるかもしれないし、こんな葉っぱだけだったんだと知ることや、うまくいけば食べることが出来るかもしれない、きつと興味を湧くはずです。野菜の花はともかわいいの、花を見るために育ててみてもいいかもしれません。たくさん収穫できるわけではない

けれど、ささやかな実りを楽しむことができます。せまいベランダの小さな自産自消かなと思っています。私が学んだように、私のまた次の世代にも同じように植物や生き物と触れ合う中で、自然と伝えていけるようにすることが、私にできることだと思います。今、地球規模で何が起きているかを知ること、関心、興味を持つこと、そして何かひとつ植物を育ててみる。それだけでも日々いろいろな変化に気付けるはずです。みなさんも始めてみませんか。

入賞

ベランダの小さな自産自消

大阪府 大阪府立北稜中学校 一年

佐伯 彩里

入賞

「もったいない」をなくしたい

岐阜県 中津川市立第一中学校 三年

下村 明日香

食品ロスについて、詳しく調べたことはありませんか。

食品ロスとは、まだ食べられる食品を廃棄することです。調べてみると、まだ食べられる食品を燃やすことによって、二酸化炭素が発生して地球温暖化につながるそうです。また、日本では年間約五二二万トンもの食品が廃棄されているそうです。これは世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援量とほぼ同じ数だと聞いて、本当にもったいないなと思いました。

そこで私の家では、賞味期限が切れそうなものを一気に消費する「食品消費デー」をつくっています。これを始めたきっかけは、高校の泊まりのオープンスクールに行つたときにたくさん給食が捨てられているところを見ました。そこで、学校で食材が捨てられる量は変えられなくても、せめて家では食材を無駄にしないようにしようと思つたことがきっかけです。買い物に行つたらついつい買ひすぎ

てしまつたり、安いからと言つて賞味期限が近い食品を買つてしまうことがあります。そして気づいたら賞味期限ギリギリだつたりすることがよくありました。

そこで、月に一回、食べたいものを我慢して期限が近づいているものや、冷凍庫にずっとある食品を一気に消費します。そうすることで、捨てる食材を大幅に減らすことができました。

また、私の家では米の研ぎ汁で食器を洗っています。これを始めたきっかけは、米の研ぎ汁には食器の汚れを落としやすくする効果があるというのを聞いたからです。さらに、研ぎ汁を使うことによって、必要な水が洗い流す水だけになつて、一石二鳥だなと思ひました。これは八年ほど続けている我が家の自慢です。

去年の家庭科の授業で食品ロスについて学びました。そして小学校の頃からなんとなくしか知らなかった食品ロスが、こんなにひどい状態なんだと驚いたのを今でも覚えています。私は食べることが大好きなの

で、たくさんさんの食べ物が捨てられている動画を見て、なにかできることはないかな、と考えました。

他にも、お風呂の残り湯で洗濯をしたり、畑で作っている野菜のヘタや皮を肥料にしたりしています。お風呂の残り湯を使つたら、洗濯で使う水の量を減らすことができました。そして、身近なことでも意識したら簡単にエコなことができると実感して、とても嬉しかったです。ヘタや皮を肥料にしたなら、ゴミの量が減つて両親が喜んでくれました。

一つの家庭で地球を変へることはできません。でも、些細なことでも無駄をなくしていつたら地球のためになると思います。そのためにも私は、地球の将来のことを考えて「もったいない」をなくす行動をしていきたいです。

入賞

眠るランドセルをなくすための提案

愛知県 名古屋市立鳴海中学校 一年

高柳 大河

ごみの分別などによる資源のリサイクルが社会に浸透してきているのに、私の部屋にはほこりをかぶつたランドセルが眠っている。

ところどころ傷はあるものの、まだまだ使えそうなものを捨てられない。でもほかに使い道はない。周りの友達に聞いてみたところ、ほとんどの友達は、私と同じで家にあると言つていた。眠るランドセル問題、どうにかしなければならぬ。

先日、テニスラケットを探しにリサイクルショップに行つた。テニスは初めてだから、最初はリサイクルショップの安価のものにしようということになつたのだ。そこで私はランドセルが売られているのを見た。でも、リサイクルショップにランドセルを買いに来る人は多くはないだろうと思つた。なぜなら、ランドセルは六年間使うことを前提にしているため、今回の私のように、試しにリサイクルショップで買おうということにはならないからだ。さらに、リサイクルショップはランドセル専門店ではないた

め、圧倒的に品数が少ない。私の曾祖母は、介護用ベツドと歩行器をレンタルしていたことがある。加齢とともに体の機能が変化するので、その時にぴつたりな介護用の家具や道具をレンタルできるのは便利だと思ふ。また、ベビーベッドやチャイルドシートも、レンタルが広がっていると聞いた。

社会では、購入ではなくレンタルが進んでいる分野がいろいろあるようだ。

そこで私は、眠るランドセルをなくすために、二つ提案がある。一つは、ランドセルを販売した会社に、使用済みランドセルの買取りを義務づけ、状態の良いものは中古品や修理品として、新品とともに販売してもらふことだ。店舗に、新品・中古品・修理品が並べられていれば、消費者は比較して購入することができる。会社は買取りが義務づけられるとなれば、修理やリサイクルも考慮して商品を作るようになるかもしれない。

もう一つは、ランドセルもタブレットのように学校から借りる形態にすることだ。

入学の時に借り、卒業の時に返却し、修理メンテナンスをして次の児童に渡すことになる。

私の二つの提案は、ランドセルに限つたことではない。使用時期が限定されるものに関しては、販売した会社を買取りを義務づけ再販をしたり、レンタルの形態をとることが有効だと考える。若年層の意識改革も含め、学校での指定用品から、社会全体にこの流れが広がるのではないと思う。

今ショッピングセンターに行くと、修理の店が数店舗あるだけで、他は新品を販売する店ばかりだ。新品と中古品・修理品が一緒に販売されている店舗があたり前になり、レンタルの店、修理の店がいくつもあふ、という日が近い未来来ることを期待している。

入賞

希望の風が吹きぬけた

東京都 渋谷教育学園渋谷中学校 一年

武田 梨々花

今年の夏の猛暑は本当に

耐えがたいものだった。今年の夏に限った問題ではない。近年の集中豪雨や猛暑にはたまたまではないと感じさせるものがあつた。気候変動は私の知らない間に音を立てずに進んでいた。

気候変動を食い止めるためにはエコな生活をする必要があると頭では分かっていた。そうしたいとも思う。しかし、エコな生活がどんなものか具体的な想像がつかない。また今の生活が私に不満を感じさせない。そのため私の生活はあまりエコとは思えなかった。暑ければエアコンの設定温度を下げ、のどが渴けばペットボトルの水を飲み、欲しいものがあれば買ってごみを増やしてしまう。しかし、そんな私にこの夏休み、エコのとらえ方が変わる経験ができた。

夏休みに私は家族で岐阜県に旅行に行った。その時私たちは世界文化遺産にも登録されている合掌造りの集落を訪れた。そこは昔ながらの生活が続いていることが感じられ、自然豊か

で素敵な場所だった。

私が驚いたのは合掌造りの家の中がとても涼しかったことだ。それはなぜか。見渡してもエアコンや扇風機は見当たらなかった。ただ窓が大きく開け放たれていた。窓が二つ開いている時、空気は窓から窓へ流れ、涼しくなるといふ話は聞いたことがあつたが、効果は想像を大きく超えていた。また、自然な風はエアコンの人工的な風よりも心地よかつた。

もう一つ考えられるのは、家が木造建築であることだ。木は、夏には空気中の水分を吸収し快適な湿度に調整してくれる。逆に冬には水分を発散し、人の過ごしやすい湿度に調整してくれる。このように、木材の性質が日本の風土の性質に適しているため古くからの日本家屋は木造なのである。古くからの生活には今のように電

ということだ。

もう一つ、私のエコのとりえ方が変わったことというの、エコとは大きな取り組みによつて始まるものではないということだ。地球環境の危機を認識し、何か行動を起こしたいと漠然

と思いつつも何をしたらよいのかわからないというのが本音だった。そんな時自然の力を利用した窓を開けるといふ知識が私の前に現れた。こんなに小さな工夫がエコに繋がっている。私はそれに感動した。こんなに小さな事でいいのだと知った。3R、カーボンニュートラル、サーキュラーなど環境問題の解決に関することはたくさんあるが、スケールが大きくてどのようなすれば解決に近づけられるのかよくわからなかつた。でも小さな工夫でよいのだと気がついた。無駄なものを買わない、環境に配慮した製品を買うようにする、などすぐに始めていきたい。そして自分の持っている環境問題への知識を生かして、自分の頭で考えた自分なりのエコを始めたい。

入賞

わが家のエコルール

岐阜県 岐阜市立草潤中学校 二年

立澤 瑠姫

わが家には節約の鬼がいます。鬼の雷が落ちないように私は普段、節電・節水をしています。

わが家にはルールがあります。一つ目は、エアコンを同時に使用するのはいくつまで。二つ目は、テレビは

一つ目のルールは、特に夏が厳しいです。夏休み、家に居る時、自分の部屋に行きたくても行けない場合が多いです。なぜなら、うちの母は専業主婦でいつもリビングでエアコンを使っており、父は月の半分は夜勤で昼間に寝室のエアコンを使っているため、私は自分の部屋に自由に行き来することができないのです。

二つ目のルールは、小さい頃から守ってきたルールなので、私は特に不自由はしていませんが、父はいつもルールを守れず、母に注意されています。

三つ目のルールは、この作文を書くまで知りませんでした。体の成長とともに「お湯が少ないなあ」と思っていました。体の成長には関係なく、ただ単にお湯が少なかった。

ここまではデメリットを書いてきましたが、これらのルールにはメリットもあります。一つ目のルールのメリ

ットは、家族が仲良くなることです。同じ部屋に居ること、会話が生まれ、何でも話せる関係になりました。

二つ目のルールでは、時間を無駄にせず、趣味などに時間を有効活用することが出来ます。三つ目のルールでは、毎月二十六日(風呂の日)に満水デーを設けているので、特別な気分が味わえます。そして、これらのルールの最大のメリットは、節水・節電を家族で協力的に行っていることです。節水・節電をルールに取り入れ、習慣的に行うことで、生活の中でエコ活動があたり前にできるようになりました。

今までは、「家族で決めたルールだから」という理由

で意識せずにエコ活動を行っていました。これから、自分でできそうなエコ活動、3R、気候変動対策を行っていききたいです。皆さんも節電・節水などを生活のルールに取り入れて、地球温暖化の対策をしてみませんか？私たちの手で、地球を救いましょう！

入賞

未来への第一歩

兵庫県 賢明女子学院中学校 三年

野中 麻央

毎日ニュースで耳にする「過去最高気温になりました。」という言葉にどこまで気温は上がっていくのかという不安さえ感じてしまうほどだ。私が小学生の頃、ラジオ体操へ向かった六時頃、今よりも断然涼しかったことは今でも鮮明に体が記憶している。今世界を見れば最高気温七十度以上の地域もあり、深刻化していることがはつきりと知ることがができる。日本でも四十度を超す地域が少なくない今日この頃だ。これら気温上昇や暴風雨の激化、干ばつ地の増加など問題「気候変動」について何か私たちが人間ができることはないか考えていこうと思う。

もちろん環境の為に良いことをするということは皆が理解しているが、それをいかに楽しく長く続けることができるようにするかが重要だと思う。そこで私が考えたこと、それは「ポイ活」だ。人は「お得感」が好きだ。だからこそ日常にポイ活を取り入れ地球に優しい行動することを提案したい。

や家電会社ではすでにこのポイ活なるものが始まっている。人々の電力の使用が集中する時間になるべく消費を減らせばポイントになるというような活動は、母の心を奮い立たせ、ゲーム感覚で消費を減らすことができるという楽しさがあり、環境に優しいことを実践しながら、なお無理やり感がないというのは素晴らしい活動だ。

それをふまえて私は二つのことを実践した。一つはアプリでの「ポイ活」だ。歩けば歩くほどポイントが稼ぐことができるアプリだ。駅までは普段両親に送ってもらっているのだが、これを利用して歩くのことにしてみた。ただ歩くのであれば「暑くていやだ」と続かないことでもこのポイ活があることで、ポイントを集めて商品を手に入れたとき、「もった」という気持ちが生えた。「楽しさ」と「環境に優しい行動」が活動を継続させた。二つ目は先ほどのアプリを活用した家族での競争だ。夏休みをポイント加算期間と決め、一番ポ

入賞

父のポケットの中

東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校 一年

坂東 可奈子

正直に言えば、私はこれまで環境保全について深く考えたことはありませんでした。リサイクルや節電といった取り組みは大事だと理解していても、実際に自分が何か行動を起こすことはほとんどありませんでした。しかし、ある日、私の父の行動を目にしてから、その考え方が少しずつ変わ

り始めました。私の父は、弟の小学校の野球部のコーチをしているのですが、いつもユニフォームのポケットに一枚のビニール袋を入れて練習に出かけます。父にその理由を尋ねると、「多摩川にお世話になっているからね。多摩川がいつまでもきれいな川でいるように練習中にゴミを見つけたらすぐに拾えるようにしているんだ。」と教えてくれました。父は少しでも環境を守るために、この習慣を続けています。

この父の姿を見て、私は環境保全について何もしていない自分を少し考え直すようになりました。父の行動は特別なものではないかもしれませんが、こうした

小さな行動の一つ一つが積み重なることで、少しずつでも環境に良い影響をあたえることができるのではないかと考えたのです。

実際、父の姿を何度か見ていた一人のコーチが同じようにビニール袋を持ち歩き、「坂東さんの行動は素晴らしいので、私も真似しようと思いました。」と言って、ゴミ袋を持ち歩くようになったとのことでした。まだそれが他の人たちに広がっているわけはありませんが、父の行動が少しでも周囲に影響をあたえていることを知り、私は父を誇りに思いました。

ゴミ拾いのような小さな行動が、気候変動対策にどれだけ貢献できるのかを疑問に思うかもしれません。しかし、調べてみると、放置されたゴミが自然環境や気候に与える影響は無視できないことが分かりました。

特に、河川敷に多いプラスチックゴミは、分解されるまでに非常に長い時間がかかり、その間、環境に負荷をかけ続けます。また有機ゴミが放置されると、分解

過程でメタンガスが発生します。このメタンガスは、二酸化炭素よりも強力な温室効果を持ち、地球温暖化を進行させる原因となります。

私は、父のように自分ができる範囲でゴミ拾いを続けることは、大きな意味があるのだと感じるようになりました。私もこれを持

つことにしました。父の姿を見て、自分にも何かできることがあるのではないかと考えたからです。これから、父のように少しずつでも環境保全に貢献できるような行動を心がけたいと思います。そして、気候変動という大きな問題に対して、私にできることを見つけていきたいと思っています。小さな意識と行動の変化が、未来の地球を守るための一歩になると信じています。

入賞

最初の一步

千葉県 千葉県立東葛飾中学校 二年

福島 萌椀

「最近、セミが増えたんですよ。」

夏休み中に上高地へ旅行に行ったときに、タクシーの運転手がそう言った。千葉県と同じくらいいいなかつたので、私はあまり実感が持てなかった。けれども、母は「二十年前に来たことがあるけどそのときより暑くなりましたよね。」と言った。そのとき私は、はつとした。上高地も温暖化していることを改めて認識したのだった。

そこで私は、セミの生息条件などを調べることにした。どうやら上高地に生息するセミはコエゾゼミという種類らしい。コエゾゼミは標高九百メートル以上の山地に生息する。コエゾゼミの近縁種にクマゼミがいる。クマゼミは最近、温暖化によって北上が進んでいるらしい。

私は母やタクシーの運転手が昔見ていた上高地の景色、聴いていた自然の声を感じてみたい。後世に今の景色を見せたい。

上高地には、そうするための五つのルールがある。

「採らない、与えない、捨てない、持ち込まない、踏み込まない」というルールだ。みんなが意識することで美しい自然が保たれ、またそれが発展していくのだ。私はこれが自分の街でも広めてほしいと思った。

そこで、私はこの夏休み実際に رفتったことがある。それはエコクッキングだ。エコクッキングとは環境を思いやりながら、買い物や調理、食事、片付けを行うことだ。これはさき程言った上高地のルールの中の「採らない、捨てない」に共通する部分がある。そもそも旬の食料を使うことでビニールハウスなどを使用する際の排出ガスをおさえられる。それに食料の廃棄を減らすことは「採らない、捨てない」に当てはまる。このようにエコクッキングは様々な観点から見ても多くの人に実践してほしいことだと私は思う。

私がこの夏休みに上高地へ行って感じたように、近い将来今度は自分たちが「昔はもつと綺麗だった」とか「もつと色々な生き物が

いた」とか言う日が来ると思う。その未来を今、自分たちがつくっているということをやより多くの人に知ってほしい。

上高地に限らずみなさんの街でも見えないところで気候変動が始まっているのだらう。その変化が大きくなる前に対策を始めてほしい。私が行っているエコクッキングはゼロ円で作ることができる。時間も手間も楽な活動だ。地球にも私にも、そしてあなたにも優しい。それをするだけで、何か目に見えて感じられる変化は小さい。だけど、意識し始めたその心が未来の地球に繋がる。だからどうか自分事になってほしい。そして最初の一步を今、踏み出してみませんか。

入賞

世界を救う ”もつたいたい”かき揚げ

京都府 ヴィアートル学園洛星中学校 三年

藤田 結悟

家から出た途端、汗が流れる。京都盆地の夏の暑さは言わずもがなではあるが、それにしても昨今の暑さは異常だと思う。

ふいに冬に受けた数学で環境問題を考えたという授業が思い出された。温暖化の原因である温室効果ガスのCO2濃度の関数グラフ。十八世紀から上昇し始め、ここ数十年は急カーブを描いていた。続いて京都地方気象台調査官の講演も蘇る。現在地球は、過去千四百年で最も暖かくなり、気候変動が起きている。この影響は降水量や海面水位の変化、生態系の喪失といった自然界への影響だけでなく、電気供給や医療等のインフラ機能停止、食料や水の不足等、人間社会にも深刻な影響が想定されていた。夏を迎え、あの時の話が切実に迫ってきた。パリ協定について学んだ冬には、遠い約束に思えたが、今は違う。これは僕の問題だ。流れる汗がその証拠だと感じた。

僕に何が出来るだろうと考えると、僕は毎日学校に着く。夏

休みの今日、向かうは所属する料理研究会である。僕は料理を作る。絶対に食材を余らせないという理念の元に、使う量だけ買う、使い回しで使い切る工夫の上、どうしても使い切れない時は冷凍して次回使う。無論作った分は残さず頂くことを信条としている。

そしてもう一つ、調理中に食材のかけらや根菜の皮、畑で育てている野菜の間引き菜等、捨ててしまいがちな食材も、余す所なく使うという鉄則がある。そう言えば食品ロスも温暖化の一因だったことを思い出す。すると、当たり前に実行してきた部活での取り組みが、温暖化を防ぐ為に僕にできることだというひらめきがあった。帰宅して調べた所ひらめきが確信に変わった。何と世界で排出される温室効果ガスの最大一割が、食品ロスから排出されていた。世界では、食料の五分の一が捨てられている。日本では減ってきているものの、それでも国民全員がおにぎり一個分のご飯を毎日廃棄しているの

と、ほぼ同量だという。もつたいたい、と直感的に思った。この感覚が食品ロス削減を達成する鍵だと感じた。ならば、この感覚を新しい文化にすれば食品ロス削減につながるのではないか。

”もつたいたい”精神で創る新しい食文化として、僕の頭の中には料理研究会でお正月に作る余り食材のかき揚げが浮かんでいる。おせち料理には昔から、黒豆が健康、海老は長寿といった大切な意味が込められている。ならば、令和のおせちには「もつたいたい」の意味を込めた余り食材のかき揚げが必要だ。

来年からおせちに、「もつたいたい」かき揚げ“を入れて欲しい。その一枚一枚が、新しい食文化を創り、もつたいたい精神を広げ、根付かせ、やがて世界を救うのだ。

入賞

趣味で地球に恩返し

鹿児島県 伊佐市立菱刈中学校 二年

堀之内 闘舞

人にはそれぞれ、趣味があると思います。僕にも、もちろん趣味があります。僕の趣味は古着屋巡りです。最初は、「一点物が多く他と被らないから」などといった理由でした。しかし、ある動画と出会ったことをきっかけに少し意識が変わりました。

僕は、古着屋を巡るのと同じくらい、服に関連する動画を見るのも好きです。服の系統によって異なる合わせ方や、いい古着屋を探すために見えています。と

ある日、僕は古着屋の店員さんが話している動画を見つ、少し見てみました。その動画では、その店員さんの服への愛や、働いている理由などよく見る動画の内容でした。でも、その店員さんの一つの言葉にとっても惹かれました。

「自分が好きな古着を買うということが、地球を救う手伝いにもなる。」

そんな簡単な話じゃないと思う人もいるかもしれない。けれど僕は、この言葉を聞き、喜びを感じました。

「自分みたいな何も出来ない

い学生でも、地球を救うことができるとだ」

といった高揚感と、これからは地球に恩返しできることへの希望の二つが喜びへとつながりました。

これを機に僕は、あらたに夢の可能性を考えはじめたりもしました。それは「リユース製品の販売」をする仕事につくことです。リユースだけでなくリサイクルやリデュースも取り入れていきたいとも思いました。

「趣味を仕事にするのはよくない」という意見を耳にしたこともあります。でもこの趣味を仕事にすることで、地球のためにとなり、自分の好きなことにたずさわれたり自分の可能性が広がってくると思います。

また、たくさんさんの事を聞き、考え、僕は大切なことに気付くことができました。自分のささいな趣味でも、視点をプラスのことに向ければ、様々な可能性を見出すことができるということです。

僕は最初、古着のマイナスな部分にしか目を向けて

おらず、少し抵抗がありました。でも、プラスな部分に目を向ければ、今こんなに古着を好きになることができました。古着に限らず、リユース製品を「他の人が使っていたから」と嫌がらず、プラスな部分に目を向けます。買ってみませんか。そうすることで、好きになることができ、趣味で地球に恩返しができるかもしれません。

入賞

今日からできること

大阪府 大阪府立北稜中学校 一年

松島 花音

今年の夏はとても暑い。朝起きた瞬間から汗をかくし、エアコンの効いた所じゃないと生きていけないと感じる。去年の夏も暑かった。その前もその前も……。毎年歴史的暑さだ。このままずっと暑くなつていくのかと思うと不安になる。いつも元気な私も、今年は少し熱中症になつてしまった。

きゅうりはスーパーで売られている。でも祖父母は冬は食べない。我が家にも送られてこない。畑で育たないからだ。きつと冬のきゅうりは温室などで作られているんだ。

きゅうりはスーパーで売られている。でも祖父母は冬は食べない。我が家にも送られてこない。畑で育たないからだ。きつと冬のきゅうりは温室などで作られているんだ。

その日の晩御飯に母は、「きゅうりは身体を冷やしてくれるから。」ときゅうりの浅漬けを出してくれた。祖父母が畑で作って送ってくれたきゅうりで、夏になるとこのきゅうりの浅漬けを本

当によく食べる。家族の夏の好物だ。祖父母にお礼の電話をする、

「きゅうりが採れ出すとそればかり採れるのよ。同じ野菜をずっと食べなきゃだ。でも味を変え調理方法を変えて旬のお野菜を楽しんで。たくさん食べてね。」と。

祖父母は自分で育てて採れた野菜を食べ、スーパーでほぼ野菜を買わないと言っていた。この話を思い出して私はハッとしました。冬でも

きゅうりはスーパーで売られている。でも祖父母は冬は食べない。我が家にも送られてこない。畑で育たないからだ。きつと冬のきゅうりは温室などで作られているんだ。

きゅうりはスーパーで売られている。でも祖父母は冬は食べない。我が家にも送られてこない。畑で育たないからだ。きつと冬のきゅうりは温室などで作られているんだ。

5倍もエネルギーがかかっている事になる。ハウスを温める光熱動力がその76パーセントを占める。「認定NPO法人環境市民」によると1000キロカロリーで液晶32型テレビを26・5時間動かせる。400リットルクラスの冷蔵庫だと37・7時間動かせるのだ。テレビをこまめに消して、冷蔵庫の開け閉めの回数を減らして節電しても、真冬にきゅうりを食べると、その努力は吹き飛ぶ。

「この野菜を使つて、今日の晩御飯何にしよう」と母が考えていたら、「一緒にメニューを調べ、作ってみよう」と思う。旬の野菜を選び食べる事が、ハウス栽培などがかかっているエネルギーを減らし、温室効果ガスを減らすことに繋がる。そして、この私の小さな日々の選択が大きな気候変動対策につながっていくと、私は思う。

きゅうりはスーパーで売られている。でも祖父母は冬は食べない。我が家にも送られてこない。畑で育たないからだ。きつと冬のきゅうりは温室などで作られているんだ。

入賞

油で乗り物を動かそう

東京都 東京学芸大学附属世田谷中学校 一年

神子田 芽衣

母が作るからあげは私の大好物だ。母によると、調理後の油は凝固剤で固めて燃えるごみで捨てているらしい。あげ物用に使われる菜種油は、江戸時代には行灯の灯りになっていたそうだ。そこでエネルギーの代用品として調理後の油も再活用できるのではないかと思いついた。

廃油は日本で年間53万トン発生しており、このうち約43万トンが事業系廃油で、約10万トンが家庭廃食用油だ。事業系廃油は飼料用や工業用等として80%再活用されるが、家庭廃食用油は91%が廃棄になり、僅か年間1万トンしか再活用されない。全国の自治体では14カ所で廃食用油回収の取組があり、中でも京都市はいち早く平成9年から開始(他の自治体は平成21年頃)していて熱心だ。

そこで私は横浜市の取組に参加し、京都市の事例を参考にどんな取組を進めればいいのかを考えてみた。横浜市は今年3月からJALと提携し廃食用油

を航空燃料として再活用するため、横浜市のスーパーで回収をしている。同取組を通じ、市民の環境意識向上も狙いとしているそうだ。私は実際に使用済み油を持っていった。廃食用油はペットボトルに入れて回収するが、ペットボトルは入口が狭いし油はべたべたして扱いづらく詰め替えに苦労した。また、回収場所は1カ所だけで車で23分かかかる距離にある。実際に行って感じたことは2つある。1つ目は回収方法、回収場所が限られ手間がかかること。2つ目は廃食用油の使い方だ。普段飛行機に乗らないため、取組の効果を実感しづらい。

私は回収拠点の充実化や回収車の巡回で住民が参加しやすい点。2つ目は、市バスやごみ収集車など暮らしに身近なところで再生燃料が使われるので、環境への貢献できることだ。一方で気になる点もある。こうした取組には回収拠点の準備、生産設備の建設など多くのお金が必要だ。この取組が広がらないのは財源不足も背景にあると思う。また京都市の取組は両親や知人に聞いても知らない様だった。廃食用油をもっとリサイクルするには、多くの人に取組を知ってもらうことも必要だ。

私の推計では、全国で京都市の取組を進めると年間約88万2000トンのCO2を削減できる。この取組を多くの人に伝え、廃食用油の再利用が気候変動を食い止める一つの手段になることを私は期待する。

入賞

私ができる環境問題への取り組み

大阪府 大阪府立北稜中学校 一年

三宅 由桂

日々の生活の中で多々思う事がある。昔と比べて今はお金をかせば何でも手に入る。とても便利な世の中だ。実際に私も百円ショップに行き買い物をすることがある。これが百円?とびっくりする商品もあったりする。

食べ物に関してもそうだ。肉や魚や野菜を安く買えるスーパーも沢山ある。実際に私の母はスーパーで安く売っているのを見つけた時はとても喜んでる。

と弟はとても楽しそうに、しかも器用に頭を落として内臓を取り出し海に落とした。この頭と内臓をまた別の魚が食べそれをまた私達が釣る、そのくり返し。海でさばく事により家庭で生ゴミを出さなくていいんだと思った。私も弟も実は魚が苦手だ。でも釣りを始めて釣れたの美味しさを知り食べられるようになった。食を通じて、家で生ゴミを減らす事もできる事を学んでいる気がした。

私に気が付き、行った事今の環境問題に比べたら、とてもとても小さい事かもしれない。でも、その小さい事を少しずつ少しずつ行う事で、ゴミを減らし、リサイクルする。そして、もっとも自分で、家族で、学校全体でできる環境問題を見つけ取り組むように努力したい。

私は家族でたまに釣りへ行く事がある。どの季節でも魚は釣れるが、やはり秋が一番美味しい。恥ずかしい話、釣りに行くまで私は動いている魚は苦手だった。水族館で魚を見るのはいいが触るのはとても抵抗があった。だが釣りとなると魚を触れない事にははじまらない。以前、鯛が大量に釣れた事があった。家に帰ってさばくのは手間だと母が言うので頭を落として内臓を取り出して帰ろう!と言われた。嫌だなと思っている弟がやりたいと言いついて私はびびくりした。する

冒頭の百円ショップの話に戻るが、私は本が好きで、百円ショップでキャラクターの葉をよく買う。どんなキャラクターが入っているか開封する楽しみもある。ある日、ふと葉を作れないかなと思った。今まで厚紙で作った事は何度もあったがすぐに破れてしまったりする。百円ショップの葉はプラスチックなのでしっかりとっている。私はペットボトルの蓋で作れないかな?と思い調べてみると、同じ考えの人がいた!作り方を動画であげている人がいる。すぐに家の中のペット

入賞

まずは電子レンジから

栃木県 宇都宮市立姿川中学校 二年

過足 さゆり

夏休みのある日、私の家では電子レンジが壊れました。もう寿命だったのでしょう。「バン！」という破裂音のような音とともに、私の家の電子レンジは役目を終えました。

その日から電子レンジ無しでの生活が始まりました。色々と不便な事がありました。特に調理の際には冷凍していたお肉が解凍できないなどの問題がありました。そこで私は今まで電子レンジを使うのが当たり前だった事に気が付きました。その出来事から私は、どうすれば電子レンジに頼りすぎずに生活できるのか考えてみました。

一つ目は、お肉などを解凍するときには先に自然解凍を行う事です。これを行えば電子レンジの利用時間が大幅に短縮され、さらにムラなく解凍することができ

ます。

二つ目は、ご飯などの余り物を減らす事です。私の家ではよく作った料理が余ってしまった、冷蔵庫で保存して次の日に電子レンジで温めて食べる事がよくあ

りました。しかし電子レンジが使えなくなり、保存した料理を温めて次の日に食べることができなくなりました。そこで私の家では料理をその日のうちに全て食べ切る事を実践してみました。その結果、電子レンジを使う必要がなくな

る、食べ忘れて捨ててしま

う事がなくなる、さらに作った人への感謝を明確に表せるといふ利点が見つかりました。

三つ目は、パンをトーストしたいときはフライパンを使う事です。冷凍されたパンを食べたいときはフライパンにパンを乗せて蓋をし、二三分ずつ裏表を焼けば電子レンジのオーブン機能を使わずにパンを焼く事が可能になります。

四つ目は、冷凍ご飯を耐熱袋に入れて保存する事です。間違えてご飯を炊きすぎ

て今日中には食べ切れな

い、というときはジップロックなどの耐熱袋に小分けにして入れるのがおすす

めです。そうする事によって、電子レンジを使わずに湯せ

んだけで解凍する事ができ

入賞

今すぐはじめる地球温暖化対策

福岡県 福岡市立高取中学校 一年

吉野 雅人

私の祖父母は梨・みかんを作る果樹農家です。今年の夏も祖父母の果樹園には甘くてみずみずしい梨がなっています。

夏休み、私は祖父母の家に遊びに行きました。採れたての梨をほおばりながら祖父と話をしている時、祖父は言いました。

「こんなに暑くては実がで

きん。」

私が食べている梨は甘くてみずみずしくいつも通りのおいしい梨だったのでその意味がわかりませんでした。その意味を尋ねるところ教えてくれました。

「梨の実が成長するには太陽の光や土壌の水分量を保つための適当な雨量が必要だ。でも、連日の異常な高温と雨が少ないことで梨の実に十分な水分が行き渡ることができずに大きな実ができない。」

というのです。さらに、日差しが強すぎるために梨の皮の部分黒くなり出荷が出来ない梨も出ているそうです。このような気候異常による農業問題は世界中で頻発していてニュースでもた

びたび目にします。

なぜこのような事が起きているのでしょうか。その大きな原因のひとつが地球の温暖化です。日本では過去百年で一・三度も気温が上昇しています。さらに約七十年後には地球の気温が今よりも七度上がる

といわれています。地球温暖化が今後急速に進んでいけば海面上昇により小さな島国は水没してしまい、降水の変化により豪雨や洪水が頻発、地域によっては乾燥化が進行していきます。このような状況は農作物に今

以上に重大な影響を与え、その結果、作物が育たず世界的な食料不足になっていくでしょう。また温暖化で永久凍土が解けることにより、長い年月氷の中に閉じ込められていたウイルスが蔓延するともいわれています。地球温暖化の影響は計り知れません。

もし私たちが地球温暖化に向き合わずに生活を続けられれば、今のよう暮らしは近い将来でなくなり

ます。

では、中学生の私に何が

出来るでしょうか。例えば、家電の中で一番電力を使うのはエアコンです。毎日使うエアコンの設定温度を一度上げるだけで消費電力を十三パーセントも下げることが出来ます。またエアコンを使う時にサーキュレーターや扇風機を使用することで、効率よく快適な温度に出来ます。他にもテレビを見ない時はつけっぱなしにしない、必要のあるものだけ買うなど今すぐにできることがたくさんあります。地球上に住む一人一人が地球温暖化に対して真剣に取り組めば、時間はかかるでしょうが確実に地球を守ることに繋がります。

祖父母は何十年も果樹園を守ってきました。私の小さな取り組みが、祖父母の大切な果樹園を守ることにつながると思いながら今

と思っています。